

5 大学等環境安全協議会報告

排水処理センター 藤原 勇

第22回大学等環境安全協議会総会・研修会

開催日:平成16年 11月 9日、10日

場 所:京都大学 百周年時計台記念館 国際交流ホール

11月 9日

挨拶

大学等環境安全協議会会長 玉浦 裕

文部科学省大臣官房文教施設企画部 加太 孝司

京都大学環境保全センター センター長 高月 紘

研修会 第1部:実務者連絡会企画プログラム (第6回大学等環境安全協議会実務者連絡会)

実務者連絡会世話人挨拶

浜松医科大学 鈴木一成

報 告

「法人化後の環境安全施設と労働安全衛生について」のアンケート結果について

世話人 鈴木一成

事例報告1

1. 岡山大学における安全衛生管理(環境安全係業務)

岡山大学安全衛生部安全衛生課環境安全係 田中雅邦

2. 法人化後の処理施設運営形態の変化について

鳥取大学施設環境部 神原良雄

3. 名古屋工業大学における衛生管理者・衛生工学衛生管理者・作業主任者の業務について

名古屋工業大学安全・保健センター 箕浦寿樹

4. 浜松医科大学における衛生管理者・作業主任者の業務について

浜松医科大学医療廃棄物処理センター 鈴木一成

事例報告2

5. 大分大学有機則除外申請の手続きについて

大分大学財務部施設管理課 栗木浩

6. 高エネ研における作業環境測定士の業務について

高エネルギー加速器研究機構 環境安全管理室 平 雅文

全体ディスカッション「労働安全衛生対応をどう進めるか」

実務者連絡会総会

平成15年度事業報告及び決算報告、平成16年度事業計画及び予算案、平成17、18年度役員選出、
実務者連絡会功労賞の贈呈

大学等環境安全協議会総会

平成15年度事業報告、決算報告、監査報告、規約改正、技術賞・功労賞授賞式

平成16年度事業計画、予算案審議、技術賞、功労賞、協議会賞受賞式

技術賞受賞講演

研修会 第2部

特別講演 「有機溶媒による健康影響と労働安全衛生法」

京都工場保健会 理事・京都大学名誉教授 池田正之

懇親会 国際交流ホール

11月10日

展望講演 「廃棄物と環境教育」

京都大学環境保全センター

高月 紘

パネルディスカッション 「大学の労働安全対応組織と安全教育」

京都工芸繊維大学、東京大学、長崎大学

挨拶

大学等環境安全協議会副会長

伊永 隆史

見学会 京エコロジーセンター(京都市伏見区深草池ノ内町 13)

今回の総会・研修会は独立法人化後の初めての総会であった。法人化して約半年とが過ぎ先の分科会にも話題となった、法人化して実際にどのように体制が変化したのかについてであった。今回は研修会の一部に実務者連絡会企画のプログラムが準備された。他大学の実情がよく知りたいと、思われて参加されている人も多くこの会は盛会であった。先の分科会では、まだ大部分の大学では作業環境測定をしていなかったのに対して、すでにいくつかの大学が作業環境を測定しており多くの情報を得た。

総会の前日に企画されていた実務者連絡会が総会研修会の間に行われた。法人化後の安全衛生管理(環境安全係業務)、処理施設運営形態の変化、衛生管理者・衛生工学衛生管理者・作業主任者の業務についての説明については、大変参考になった。また有機則除外申請の手続きについても、他大学の様子がよくわかる説明であった。また大学の労働安全対応組織と安全教育については、各大学で異なる物の、安全教育をどうするか、の取り組みについての討論があった。

今回は長年大環境の運営のお世話をされた高月先生が3月を持って定年退官されるということで、特別講演が組まれた。高月先生の廃棄物の研究についてまた、環境教育の考え方について、楽しい漫画を交えての講演であった。なお、高月先生は今後もこの大環境協議会には参加されると聞いている

第21回大学等環境安全協議会技術分科会

開催日:平成 17 年 7 月 28 日、29 日

場 所:徳島大学 長井記念ホール

7月28日

挨拶

大学等環境安全協議会

会長

伊永 隆史

文部科学省大臣官房文教施設企画部参事官付企画官

加太 孝司

徳島大学

副学長

渋谷 雅之

特別講演

「安全はリスクの考え方をベースに身近な表示と訓練から」

徳島大学 総合科学部 関澤 純

パネルディスカッション

「大学の化学物質管理と CSR 社会」

パネリスト 東京工業大学

玉浦 裕

東北大学

吉岡 敏明

東京大学

刈間 理介

司会者 東京大学

山本 和夫

一般講演

「茨城大学の4S - R運動について」

茨城大学総務部労務課安全衛生係 長谷川照晃

「実験研究設備の運用事例と効果的対策」(株)山武 ビルシステムカンパニー事業開発部 近藤寛

「大学等における環境教育とCSR 確立のための一考察 企業の環境教育及びCSR 調査結果から

長崎大学共同研究交流センター 環境マネジメント部門 石橋 康弘

プロジェクト報告

「公立大学等の廃棄物処理実態調査と環境安全推進」

代表者 伊永 隆史

「環境安全学の創成」

代表者 高月 紘

「大学等における化学物質等環境安全対策の手引き作成検討」

代表者 伊永 隆史

「大学等の安衛法(有機則)への対応」

代表者 玉浦 裕

懇親会 (ホテルサンシャイン徳島)

7月29日(金)

特別講演

「徳島県における野生生物保全への取組みと徳島大学 - 研究と施策・事業と人との連環 - 」

徳島大学工学部 鎌田 磨人

実務者連絡会企画プログラム

技術報告

「鉄粉法廃液処理施設におけるセレン系廃液処理の試み」 筑波大学環境安全管理室 柏木 保人

「有機廃液管理体制の確立に向けて」 岡山大学安全衛生部安全衛生課環境安全係 秋吉 延崇

「定期メンテナンスの必要性 - 既存処理施設の耐用年数を延ばす - 」

事例報告

「濃厚廃液処理装置における定期メンテナンスについて」 NECファシリティーズ(株) 牟田 英明

「同和式鉄粉法廃液処理装置のメンテナンスについて」 テクノクリーン(株) 小林 満

挨拶

大学等環境安全協議会

副会長 山本 和夫

分科会も、法人化後2年目とあって、先の総会と同じように各大学がどの程度労働安全対策が進んだかについて意見交換がされた。法人化1後1年過ぎたわけで、運営の方針、業務が落ち着いて来た時期での情報交換ではなかったと思う。今回は“CSR”について大学の取組み、特に化学物質管理について、パネルディスカッションがなされた。法人化の後の説明責任という意味で、化学物質管理への大学の取組み方について、いくつかの大学から説明を受けた。また、大学がこれらに対してどう取り組んでいくかについて参考になった。また事例報告としての定期メンテナンスの必要性については、興味深く聞かせて頂いた。山大のプラントも設置されて10年経過して、いままで大した修理もせずに稼働してきた。しかし、これからは維持管理を徹底しないと、思いがけない修理工事を伴うトラブルが発生することになるとも限らない。早速、長期的なメンテナンスについて検討することにした。

特定領域研究シンポジウム「環境安全学の創成と教育プログラムの開発」

1)第3回シンポジウム プログラム

日時:平成16年11月8日(月)14:00~16:45

場所:京都大学 百周年時計台記念館 国際交流ホール

開会挨拶 特定領域研究領域代表 京都大学環境保全センター 高月 紘

「京都大学における化学物質の管理について」 京都大学大学院工学研究科 木下知己

「化学実験におけるフィジカルリスクと事前評価手法」

横浜国立大学大学院工学研究院工学研究院 三宅淳巳

「酵母マイクロアレイを用いた大学等より排出される実験廃液の毒性評価」

長崎大学環境保全センター 石橋康弘

「化学物質のリスクマネジメントとリスクコミュニケーション」 関東学院大学 織 朱實

「小・中・高等学校における環境安全教育の現状と教員研修」

大阪府教育センター 研究員兼指導主事 橘 淳治

研究項目A01「継続性を備えた体系的安全管理システムの構築」より報告

研究項目A02「研究施設のアカウンタビリティ向上のための手法」より報告

研究項目A03「環境負荷を最小化するための排出側と処理側の双方向コミュニケーション」より報告

全体討論

評価及び閉会の挨拶 特定領域研究評価者 岡山大学大学院自然科学研究科 篠田純男

2) 第4回特定領域研究シンポジウム

日時:平成17年7月29日(金) 13:00 ~ 16:00

場所:徳島大学長井記念ホール(蔵本地区)

開会挨拶

領域代表 京都大学 名誉教授 高月 紘

「米国大学研究機関のEHSプログラムの概要調査」より

関東学院大学法学部 助教授 織 朱實

「教育研究機関における労働安全衛生の管理に関する研究」より

島根大学 医学部公衆衛生学教室 教授 藤田 委由

教育研究機関における環境負荷低減と安全性向上のための化学物質管理の規格化」より

京都工芸繊維大学環境科学センター 助教授 山田 悦

「教育研究施設のリスク認知と関連する情報の信頼性向上」より

京都大学環境保全センター 助教授 渡辺信久

「実験安全施設の改善——実験化学者の経験を通して」

京都大学名誉 教授 植村 榮

「研究教育現場における事件事例分析とフィジカルリスク管理手法の検討」より

横浜国立大学大学院工学研究院機能の創生部門 助教授 三宅 淳巳

「環境負荷最小化のための化学実験ダウンサイジング」より

東京都立大学大学院理学研究科 教授 伊永 隆史

「化学実験のダウンサイジング適用可能性調査とエミッション評価」より

長崎大学共同研究交流センター環境安全マネジメント部門 助手 石橋 康弘

「実験廃棄物の新規分解技術の開発と、それに対応した廃棄物処理システムの提案」より

東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授 大島義人

「京都大学化学物質管理システム(KUC「S」について) 京都大学大学院工学研究科 助教授 木下知己

「教育センター及び高校・大学・NPO連携により環境安全に配慮した実験法の開発と研修」より大阪府教育センター教科教育部理科第二室研究員兼指導主事橋淳治

「教育研究機関における環境安全教育の構築と系統化された教育プログラムの開発」より

東京工業大学炭素循環エネルギー研究センター 教授 玉浦 裕

全体討論

大環境の総会の前に第3回のシンポジウムが第4回のシンポジウムが分科会の後に企画された。前回説明したとおり「環境安全学の創成と教育プログラムの開発」について、非常に多くの面から、化学物質の管理、化学実験におけるリスクと事前評価、化学物質のリスクマネジメントとリスクコミュニケーション、小・中・高等学校における環境安全教育の現状と教員研修等々についての報告がなされた。この特定領域をどのようにまとめるかについての議論もなされた。

The 7th Symposium on Asian Academic Network for Environmental Safety and Waste Management (AANESWM)

CSR (Corporate Social Responsibility) and Education of Environmental Health and Safety

日程:2005年9月19日(月)~23日(金)

場所:ホテル メトロポリタン

討論内容

1) Environmental Risk Management

- 2) Safety and Health Management in Academic Settings
- 3) Solid and Hazardous Waste Management
- 4) Wastewater Management
- 5) Air Pollution Management
- 6) Waste Recycling
- 7) Water Quality Management
- 8) Environmental Monitoring
- 9) Environmental Ethics and Education
- 10) Environmental Economics
- 11) Community Participation in Waste Management
- 12) Academic Activity & Corporate Social Responsibility

第7回の AANESWM 国際シンポジウムは、大学等における安全衛生管理、環境保全、廃棄物処理、資源再利用などの活動を通して、地球環境保全と安全文化のための教育・啓蒙の普及および関連研究の発展に寄与することを目的に開催された。今回は、"CSR (Corporate Social Responsibility) and Education of Environmental Health and Safety"と題し、環境保全技術や教育研究機関における安全衛生の発展や、アジア地域における大学間ネットワークを通じた技術者・教育者養成の国際協力、さらには廃棄物管理や環境安全に関するアジア地域の CSR 共同地域の形成、などをテーマとした。